



多職種連携の共通言語はフィジカルアセスメント！ ～患者状態や家族背景を共有しよう～

多職種連携チーム医療の中で、薬剤師のフィジカルアセスメント目的（薬物療法の副作用発見、効果判定）は、医師、看護師とは異なります。本講座では実症例を用いて問診、検査から診断、治療の考え方を学びます。薬剤師が医師の処方設計の過程を理解することで、安全で最適な薬物治療を目指した、よりの確な処方提案を可能にします。

開催日程	2022年4月10日（日）10:00～16:00		
開催場所	本学 躬行館3階 T31講義室 及び オンライン		
受講料	5,000円	認定単位 G24 3単位	定員 対面 100名
申込受付	2022年2月9日（水）～3月28日（月）		
申込方法	ホームページよりお申込みください。 https://skc.kyoto-phu.ac.jp/		
講師	JCHO京都鞍馬口医療センター JCHO京都鞍馬口医療センター 医療法人橘会 東住吉森本病院 京都薬科大学 病態生理学分野 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター	血液内科 医師 がん看護専門看護師 薬剤科 主任 准教授・医師 講師 薬剤師・救急救命士	淵田 真一 先生 門田 典子 先生 佐古 守人 先生 細木 誠之 先生 今西 孝至 先生

時間	プログラム
10:00-12:00	【I】フィジカルアセスメント総論 ～医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう～ 1) 医師のフィジカルアセスメント ・病態把握のための問診の仕方とポイント 2) 看護師のフィジカルアセスメント ・家族的背景、社会的背景に関する情報収集の仕方とポイント 3) 薬剤師のフィジカルアセスメント ・薬の適正使用につながるフィジカルアセスメント ・バイタルサインを測定する簡易な医療機器の使用法 4) まとめ 多職種の共通言語「フィジカルアセスメント」を薬剤師も行う
13:00-15:50	【II】疾病の基礎 ～患者が示すバイタルサインと症候から処方を提案してみよう～ 1) よくみる症候から診断・治療への考え方 ・医師はこう考える「症候学の理論」 ・臨床推論力を身につけよう「診て触れるだけで、ここまでわかる患者の状態」 ・看護師はどこに注目する「よくみる症候に対する看護」 2) <SGD>症例検討から処方設計へ
15:50-16:00	全体を通しての質疑応答、講評

※プログラム内容等は変更される場合があります。

【重要】COVID-19の状況により、開催日、会場、定員、実施方法等に変更が生じる可能性があります。最新情報、詳細は必ずホームページ（<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）をご確認ください。

